

## IX 栽培漁業事業化促進事業

小 川 健・狭 間 弘 学

### 目 的

和歌山県北部地域における栽培漁業の漁業者への定着を図るために実施される標記事業において、指導事業を担当し、ヒラメの放流効果を明らかにする。

### 調査の項目と内容

調査の項目と内容は表1に示すとおりである。

表1 調査の項目と内容

実施項目	方 法 ・ 内 容
標識放流調査	放流年月日：1990年6月7日 放流場所：日高郡由良町神谷地崎（由良湾） 放流魚：ヒラメ稚魚 TL=11.6cm, 12,880尾（県栽培漁業協会が放流） 標 識：アンカータグ15mm, 青色, 記号なし 調査方法：漁業者等からの再捕報告による
標本船調査	調査場所：湯浅中央：箕島町および雑賀崎漁業協同組合 対象漁船：小型底曳網漁船3隻ずつ, 計9隻 調査項目：操業年月日, 場所, 漁獲尾数, 体重, 体色異常魚等の尾数・重量など 調査期間：'90年7月～'91年3月
市場調査	調査場所：比井崎漁業協同組合魚市場 調査項目：ヒラメ水揚げ尾数・重量, 出漁隻数, 使用反数および体色異常魚の混獲状況等 調査期間：1990年11月～'91年3月

### 結 果

#### 1 標識放流調査

1991年3月末までの再捕状況は表2のとおりで、再捕総数は16尾と非常に少なかった。うち14尾は放流地点から5km以内で再捕されているが、1尾は約50km南の田辺湾で再捕されている。

#### 2 標本船調査

調査結果は表3, 4および5に示した。3漁協の標本船では、本事業による標識放流ヒラメは再捕されなかった。

各漁協ともヒラメの漁獲量は12月から増加し翌1, 2月が最も多くなっている。漁獲尾数も同じ

表2 標識放流魚再捕状況

経過日数	移動距離 (km)								計
	0~1	2~5	6~10	11~21	21~30	31~40	41~50	51~	
0~100	0	0	0	0	0	0	0	0	0
101~200	1	5	0	1	0	0	1	0	8
201~300	5	3	0	0	0	0	0	0	8
計	6	8	0	1	0	0	1	0	16

※ 距離の小数点以下は切上げ

表3 湯浅中央漁協標本船調査結果

項目	1990年						1991年			計
	7	8	9	10	11	12月	1	2	3月	
漁獲尾数	18	0	0	0	2	14	59	77	46	216
重量 (kg)	3.2	0	0	0	0.5	13.9	31.6	62.1	32.7	142.0
平均体重 (kg)	0.18				0.25	0.99	0.54	0.81	0.71	0.66
体色異常魚										
尾数	9	0	0	0	1	2	2	1	2	17
重量 (kg)	1.2	0	0	0	0.3	0.5	1.8	0.2	3.7	7.7
平均体重 (kg)	0.13				0.30	0.25	0.90	0.20	0.19	0.45
混獲率 (尾数%)	50.0				50.0	14.3	3.4	1.3	4.3	7.9

表4 箕島町漁協標本船調査結果

項目	1990年						1991年			計
	7	8	9	10	11	12月	1	2	3月	
漁獲尾数	6	5	1	6	10	34	43	45	28	178
重量 (kg)	4.3	2.7	0.6	4.8	13.3	43.8	25.6	60.4	33.4	188.9
平均体重 (kg)	0.72	0.54	0.60	0.80	1.33	0.29	0.60	1.34	1.19	1.06
体色異常魚										
尾数	2	0	0	0	1	2	7	6	1	19
重量 (kg)	0.8	0	0	0	3.0	1.5	3.7	3.3	0.3	12.6
平均体重 (kg)	0.40				3.00	0.75	0.53	0.55	0.30	0.66
混獲率 (尾数%)	33.3	0	0	0	10.0	5.9	16.3	13.3	3.6	10.7

表5 雑賀崎漁協標本船調査結果

項 目	1990年						1991年			計
	7	8	9	10	11	12月	1	2	3月	
漁獲尾数	337	103	17	9	7	57	131	33	9	703
重量 (kg)	15.7	6.8	3.3	5.3	5.4	56.1	86.3	34.9	4.7	218.5
平均体重 (kg)	0.05	0.07	0.19	0.59	0.77	0.98	0.66	1.06	0.52	0.31
体色異常魚										
尾数	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3
重量 (kg)	0	0	0	0	0	0	0.3	0.8	0	1.1
平均体重 (kg)							0.15	0.80		0.37
混獲率 (尾数%)	0	0	0	0	0	0	1.5	3.0	0	

傾向であるが、雑賀崎漁協は7、8月の尾数が非常に多い。これは、紀ノ川河口域で体重50g前後の稚魚が多数入網するためである。標本船調査によると、この稚魚には体色異常が認められておらず、さらに詳細な調査は必要であるものの、天然魚である可能性が強く、紀ノ川河口域がヒラメ稚魚の好適な棲息場となっていることがわかる。

### 3 市場調査

比井崎漁協に揚がるヒラメは、底刺網によって、日の御崎沖から白浜沖にかけての漁場で漁獲されるもので、漁業状況等の市場調査結果を表6に示した。調査期間中の総漁獲尾数は1,541尾、漁獲量は1,971.9kgで、平均体重は1.28kgであった。このうち体色異常魚が123尾、104.0kg含まれており、平均体重は0.85kgと小型魚に多くみられていることがわかる。混獲率は8.0%であった。

また、延出漁隻数は300隻で、1隻当たり漁獲尾数は5.14尾となり、効率的な漁業を行っている。

表6 比井崎漁協市場調査結果

項 目	1990年		1991年			計
	12月	1月	2月	3月	4月	
操業日数	25	19	15	18	14	81
出漁隻数	100	108	42	33	17	300
漁獲尾数	501	633	210	157	40	1,541
重量 (kg)	649.7	909.0	258.0	120.9	34.3	1,971.9
平均体重 (kg)	1.30	1.44	1.23	0.77	0.86	1.28
体色異常魚						
尾数	40	47	18	14	4	123
重量 (kg)	33.4	45.2	16.1	8.2	1.1	104.0
平均体重 (kg)	0.84	0.96	0.89	0.59	0.28	0.85
混獲率 (尾数%)	8.0	7.4	8.6	8.9	10.0	8.0
1反当り漁獲尾数	5.01	5.86	5.00	4.76	2.35	5.14